《本号の表紙絵》

甦った小石元瑞像

（武田科学振興財団 杏雨書屋 所蔵）

日本医史学会にはかつて数十本に及ぶ先哲医家の肖像掛軸が伝えられていた．由来は確かではないが，富士川游らが先哲医家を追薦するため，名家の子孫のもとなどに伝えられる原画や木像，あるいは肖像・写真を博捜し，画家に模写彩色せしめた絵画である．『医家先哲肖像集』のもととなった藤浪剛一の蒐集品に共通する類似品もあるが，藤浪のものは紙本，一方，学会の所蔵品は絹本で，しかも上部に漢文で数行にわたる伝が記されている．画家の腕も表装も藤浪品より学会品のほうが一段上である．これらは内山孝一理事長から小川鼎三理事長に引き継がれたが，漏水による水害を蒙り，石原明前編集長が自宅に引き取り，長年保管．平成10年に至り，学会の要請により石原家から返却された．その数，38軸．

被害の軽度のものもあったが，水浸したまま放置したためか，多くは腐食してカビを生じ汚損．さらに虫害を被ったものもある．学会では今後の保存・修復を熟慮した結果，これらを武田科学振興財団杏雨書屋に委ねることを決議．平成26年に杏雨書屋に38軸が移管され，日本医史学会文庫と称されることになった．杏雨書屋は巨額の費用を投じて（株）大入に修復を依頼し，このたび全38軸の修復が完了した．

写真掲載品は最も損傷の激しかった小石元瑞の肖像．軸は完全に固着化していて開くことは不可能．無理に開けば絹が粉化して散りうせる状態であった．当初は廃棄も考えたが，ものは試しと（株）大入の技術者によって開巻修理作業が試みられたところ，絹の半分以上は虫によって失われていたものの，肖像は何とか旧態をうかがえるほど回復したのである．元瑞の原肖像画は残っているとはいえ，画家が精力を尽くして模写した文化財が甦るのは喜ばしいことである．この軸をはじめ，多くの日本医史学会文庫の医家肖像画が第116回日本医史学会学術大会にともない杏雨書屋の展示室に披露される．会員の皆様にはぜひご覧いただきたい．

（小曽戸　洋）